

世界トップクラスのサービスを提供するシンガポール港 ～PSA コーポレーション視察～

シンガポール事務所

シンガポール港は、現在 123 カ国の 600 の港と結ばれており、世界最大級の港として位置づけられています。

港湾事業はシンガポールの主要産業であり、国際的なビジネス・ハブとしての地位を確立することにより、シンガポールを経済大国へと成長させる原動力となりました。

今回シンガポールの港湾サービスの提供を行っている PSA コーポレーション及び港湾施設の視察を行いましたので、この港湾サービスの内容をご報告します。

1. シンガポール港の概要

シンガポール港は 2010 年に上海港にその座を譲るまで、世界第 1 位の貨物取扱量を誇っており、現在も第 2 位の地位を保っています。大陸の内需に依存する上海・香港とは異なり、アジアを始め世界各地への積替えのためのものです。

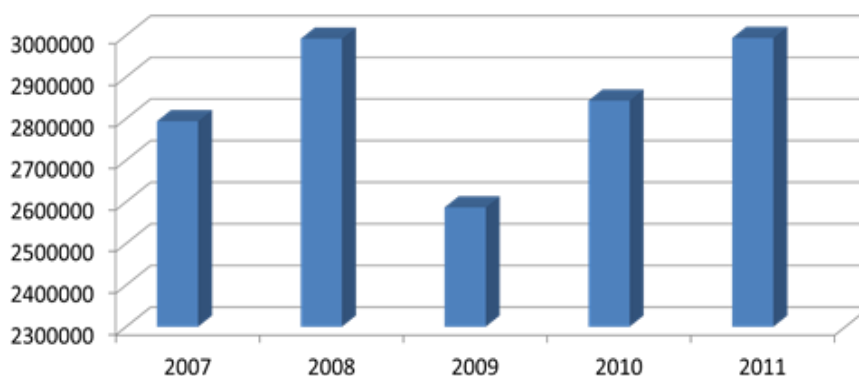
シンガポール港が今日の発展を遂げた大きな要因として、2点挙げられます。

1点目は、シンガポールが持つ地理的優位性です。シンガポールは、アジアと欧州を結ぶ航路が必ず通る位置、つまり太平洋とインド洋を結ぶ貿易航路の要衝ともいえる場所に位置しています。更に、地震や台風などの自然災害をほとんど受けることはありません。これらのことがシンガポール港の発展のための先天的な要因となっています。

2点目は、早い段階で政府がシンガポール港の港湾整備事業に注力し、質の高いサービスを提供することで他の国際港との差別化を図るという政策が成功したことが挙げられます。

□ シンガポール港のコンテナ取扱量の推移

単位：TEU(貨物量単位)
20フィートコンテナ=1TEU



2. ターミナルの視察

(1) ターミナル概況

シンガポール港の主要なコンテナターミナルは、タンジョンパガー、ケッペル、ブラニ、パシルパンジャンの4か所に位置しており、4か所のターミナルは全長 16km の道路で接続されています。

□ 各ターミナルの概況



ターミナル名	パシルパンジャン	タンジョンパガー	ブラニ	ケッペル
面積	330ha	85ha	80ha	105ha
埠頭の長さ	7,800m	2,100m	2,400m	3,200m
最大深	16m	14.8m	15m	15.5m
コンテナバース数	23	7	8	14

(2) PSA コーポレーションによる質の高いサービス提供

港湾の運営については、1997 に民営化されて以降、PSA コーポレーションという政府全額出資の民間会社が行っており、港湾の運営及び付加価値の高い港湾サービスの提供を行っています。

例えば、危険な薬品や冷凍貨物等のコンテナを取り扱う際には、

- 24 時間のテクニカルサービス
- 危険物を取り扱う際の専門家によるケアやアドバイスの提供
- 埠頭にある倉庫等の施設の貸し出し

など、荷主の要望に応じたきめ細かなサービスを行っており、こういった企業経営努力が世界と渡り合う競争力を保つことにつながっています。

また PSA は独自で所有する研修機関で職員の研修等を行っており、PSA 職員のみならず、サプライヤーやユーザーの研修生についても受け入れを行っています。



PSA ビルディング



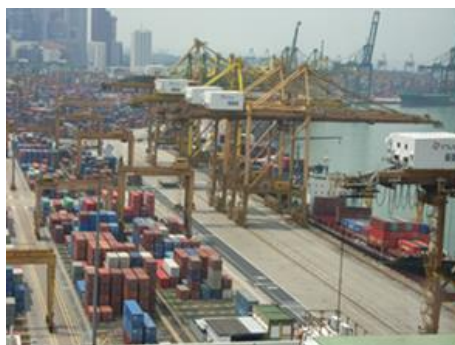
沖に停泊しているコンテナ船

(3) パシルパンジャンターミナル視察

今回視察したパシルパンジャンターミナルは、シンガポールの港湾の中で最も大きなターミナルです。同ターミナルは最大水深 16mのコンテナバースがあり、世界最大級のコンテナ船を収容できる設備を備えています。

ターミナルの入口にはゲートがあり、港湾施設内に荷物を搬入・搬出するトラックが通過する際、セキュリティチェックを受けます。セキュリティチェックではトラックのナンバープレート、コンテナ番号、重さを確認する作業を行いますが、それら一連の作業にかかる時間はわずか約 25 秒となっています。またゲートを通じた際に、情報がクレーンオペレーターに伝えられ、同時にトラックの運転手にはどのヤードに行かなければならないか案内されるため、効率的に作業を進めることができるように整備されています。

また、パシルパンジャン（ターミナル 1）には約 250 ものクレーンがありますが、そのうちの 44 機がオートメーション化されており、船舶から積み替え作業に使われています。担当者のお話では、将来的にはクレーンからトラックまですべてオートメーション化したいと考えているとのことでした。



港湾施設内のクレーン

3. 終わりに

港湾事業では 24 時間営業やオートメーション化などを打ち出しても、すぐに競争相手が同様の手法をとってくるため、シビアな国際競争市場となっています。

視察の最後に、PSA の担当者が「我々は現状に甘んじることなく世界トップクラスのサービスを提供し続けていけるよう努力していく」と言ったのが印象的でした。

国としての面積も小さくエネルギー資源にも乏しいシンガポールは、限られた条件の中でスピード感をもって集中的に投資を行うことにより、常に最大限の効率性を生み出し、日々発展を続けています。

(宮崎所長補佐 佐賀県派遣)

